

# 諸富家具産地へのデザイン思考普及に関する取組

生産技術部 佐藤 彰 辛川 洋介 川口 比呂志

これまでにない新たな価値を創出するための手法としてデザイン思考は、国内外の様々な分野において注目され、ものづくりの分野においても有効な開発手法として活用されています。当センターでは、佐賀県を代表する地場産業の一つである諸富家具産地の商品開発力向上を目的に、産地企業が実践可能なデザイン思考を活用した新たな商品開発手法の構築と普及に取り組みました。

## 着目

## “デザイン思考”

「ユーザーの行動観察」等から「潜在ニーズ」を発掘し、今までにない新たな価値や真に求められているものを創出する方法論。

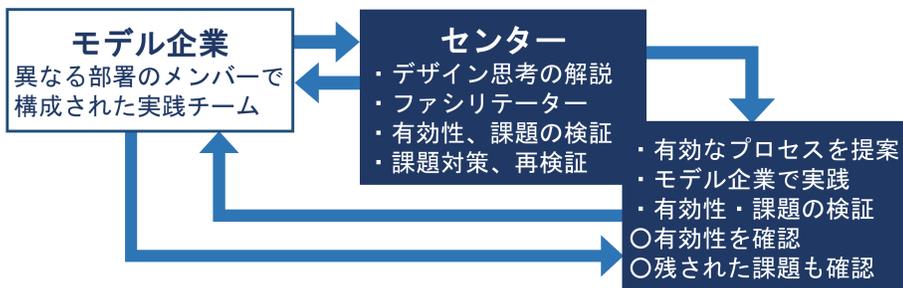


厳しい経営環境が続く家具産地（背景）

新たな価値を有する商品の開発が必要

## 取組1 産地企業が実践可能なデザイン思考を活用した商品開発の検討・提案

モデル企業による実践を通じて提案した商品開発手法の有効性や課題を抽出し、改善と検証を繰り返しプロセスごとに有効な手法を検討した。その結果、モデル企業や産地にこれまでなかった新たな商品を開発することができた。



## 取組2 開発の視点やアイデア、開発支援による普及

「取組1」を通じて、企業がデザイン思考で最も重要な初期プロセスを適切に実践することが難しいことが分かった。そこで、当センターが初期プロセスを実践し、新たな価値を有する家具開発の視点やアイデアを企業に提案・開発支援を行いデザイン思考の普及を図った。

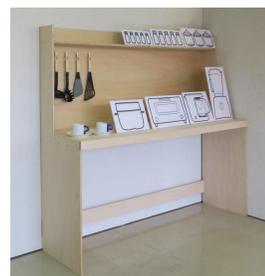
### 支援事例1: キッチン周りの収納を対象にした製品開発

#### センターの取組

- 「気に入っている調理機器は仕舞い込むのではなく、むしろ見えるように置きたいのではないか」という仮説
- 「引き出しや扉の中に収納するのではなく、自由に大ざっぱに収納したいのではないか」という仮説
- 「置く」「並べる」「フレキシブル」をコンセプトにアイデア → 企業に提示

#### センターと企業の取組

- プロトタイプ → 評価 → 改良 → 商品化



初期のプロトタイプ



商品化された家具

### 実践事例: リビングを対象とした製品開発

#### ●共感: 行動観察による潜在ニーズの発掘



毎日使う物が散らかっている

- 問題定義: 開発テーマ設定  
部屋を綺麗にしておきたいが…  
毎日使うものを毎回仕舞い込むのは面倒

＜導き出した開発テーマ＞

- 検証: アイデアの有用性を検証し、その結果をフィードバックしアイデアの質を高める

- プロトタイプ: アイデアを素早く具現化

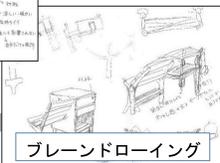


- 毎日使う物の片づけを無理なく“習慣化”するにはどうしたらよいか？

- アイデア創出: 問題解決の具体的なアイデアを創出



マインドマップ



ブレンドローイング

プロトタイプによる検証（ユーザー評価）、フィードバックの結果、ここでは片付ける対象を毎日使う色々なモノから「バッグ」に絞り込み、単機能の製品でシリーズ展開することとした。

これまでモデル企業や産地になかった「日常使うものの定位置」というコンセプトを創出

モデル企業の実践内容とバッグ専用家具の事例も交えて商品開発マニュアルを製作した



商品化された家具

### 支援事例2: 狭小空間を対象とした製品開発

#### センターの取組

- 「いつも使うものは近くに置きたいが、圧迫感のある箱物家具は置きたくないのではないか」という仮説
- 「よく使うものは仕舞い込みたくないのではないか」という仮説
- 「置く」「すぐ取れる」「接地面積小」をコンセプトにアイデア → 企業に提示

#### センターと企業の取組

- プロトタイプ → 評価 → 改良 → 商品化（準備中）



初期のプロトタイプ



仕様・フォルム確認用プロトタイプ (CG)  
商品化に向けて準備中

## 終わりに

今後は、取組を通じて得た知識やノウハウをもとに、諸富家具産地をはじめ県内中小企業へデザイン思考を活用した新たな新商品開発手法のさらなる普及を図っていきます。